

農林水産部 成果報告

農林水産部長 清水 拓

部局達成度

				
2	11	1	1	3

総 括

「第2次福井市農業活性化プラン」、「福井市森林整備・林業成長産業化推進プラン」及び「福井市水産業振興プラン」に掲げる各種施策を推進し、第八次福井市総合計画に掲げる「みんなが輝く全国に誇れるふくい」を実現するため、各種取組を進めてきました。

農林水産業すべての分野で課題となっているのが担い手・後継者不足です。就業イベントへの出展や見学ツアーなどを実施したほか、就業後の所得安定を図るため、奨励金の給付や資格取得、機械設備整備などへの支援を行い、担い手の確保・育成に努めました。

農業では、肥料価格高騰緊急支援や子育て世帯への新米購入支援により、農業生産者の負担軽減と米の消費拡大につなげました。また、飼料用米等の作付けが増加したことで主食用米の生産面積は目安の範囲内での作付けとなりました。加えて、農作業の省力化や農産物の高品質化による収益性の向上を図るため、スマート農業機器導入支援を行うとともに、技術や知識習得のための研修会・体験会についての情報提供を行いました。

生産者の所得向上を図るための地域ブランド化の取組では、金福・銀福すいかの県外出荷割合が増加したほか、今後ブランド化が期待されるオリーブについても順調に生育が進んでいます。

流通販路の開拓では、イベントや商談会等への事業者参加を促進するとともに、ECサイト「ふくいさん」への出品数増加に取り組みました。今後も連携中枢都市圏の市町と連携しながら、製品の認知度向上を図り、販路拡大ブランド化を進めます。

有害鳥獣対策では、農作物及び生活環境被害を防止するため、捕獲隊や地域等と連携し、捕獲と防除に取り組みました。農作物被害の多い集落に対しては侵入防止柵の維持管理点検強化などの指導を行うとともに、未普及集落に対しては侵入防止柵の設置に取り組みます。

林業では、森林の適切な経営管理のため、森林経営管理法に基づく所有者への意向調査を行うとともに、森林環境譲与税を活用し、除間伐等の森林整備や高性能林業機械レンタルの支援を行いました。また、子どもの居場所の木質化や、薪ストーブなどの木質バイオマス利用機器の導入に対する支援を行い、森林資源の循環利用を図りました。

水産業では、資源保護や漁業所得向上のため、中間育成・放流や養殖試験等に対し支援を行いました。また、低利用魚の有効活用を図るため、水産加工業者と高校生による水産加工品の開発を行いました。今後も、水産資源の保護やブランド化により稼げる産業への転換を図ります。

中央卸売市場では、安全・安心な生鮮食料品の安定供給に努めたほか、SNSやホームページ等を活用し地場産品等の情報発信に取り組み、流通拠点としての市場の役割を周知しました。

今後もコスト意識とスピード感をもって各事業に取り組んでいきます。

組織目標ごとの達成状況

I. 水田園芸等の複合経営やスマート農業の普及促進を図るとともに、意欲ある若者などが農林水産業に参入・定着する取組を進めます

園芸の推進では、認定農業者への助言や指導などにより、園芸に取り組む経営体の割合が増加しました。さらに、種苗購入支援を含めた園芸関係の支援制度等の周知に幅広く取り組んだことで、生産推奨品目の作付面積が増加しました。また、水田の汎用化では、主食用米の生産面積について、需要に応じた生産数量の範囲内で作付けを行うことができました。

スマート農業の推進では、県の事業を活用し直進アシストトラクターや田植機、農業用ドローンなどの導入にかかる経費の一部を支援したことで、スマート農業導入経営体数を増加することができました。

農業の担い手の確保では、就農者募集フェアへの出展や見学ツアーを開催し、本市での就農を呼びかけました。

II. 特産品の差別化や高付加価値化を図り、ブランド力を高めるとともに、ECサイトなどを活用し、市内外への販路開拓や認知度向上に取り組めます

流通販路の拡大・開拓では、イベントや商談会への事業者参加を促すとともに、ECサイト「ふくいさん」の出品数増加に取り組み、目標を達成しました。今後もECサイトの魅力を高め、認知度向上に取り組めます。

生産者への巡回指導強化により、栽培技術が向上したことで、高品質な収穫物の生産量が確保できたことから、金福・銀福すいかの県外出荷数が増加し、生産者の所得向上に繋がりました。また、オリーブについても順調に定植本数を増やしています。

III. 市内農産物や農業への理解や愛着を深めるため、食育や農業体験の機会の提供に取り組めます

食育・地産地消の推進では、ブランド米いちほまれ等の市内農林水産物を、学校給食で提供するほか、市内小学校で農業体験授業を実施し、目標を達成しました。今後も引き続き「第4次福井市食育推進計画」の基本理念「ふくいの食を通じて心身ともに健康で豊かな食文化をつないでゆく」の実現に向けて取り組んでいきます。

IV. 地域の農地保全活動を支援し、自然や食などの地域資源を活用したコミュニティビジネスを推進します

地域の農地保全活動の支援では、多面的機能支払交付金制度を活用した地域共同による農地・水路等の保安全管理や農業基盤施設の長寿命化対策をはじめ、県・市単独土地改良事業等を活用して農業の生産コスト縮減を図りました。

また、有害鳥獣対策として、捕獲隊や集落と連携し有害鳥獣の捕獲と侵入防止柵の設置など防除に取り組みました。今後も未設置の集落への鳥獣被害対策協議会設立を促し、集落ぐるみでの対策につなげます。

加えて、農地・農村環境の維持・活性化を図るため、空き家を改修してふるさと茶屋整備に取り組みました。今後も引き続き地域資源を活かした取組を支援することで、地域活性化に向けたコミュニティビジネスを進めていきます。

V. 地域交流の活性化を図るとともに、安心して利用できる休憩空間の場を提供します

一乗谷あさくら水の駅では、指定管理者による施設PRや季節に応じた利用促進イベントの開催など誘客活動を積極的に行うとともに、新たに開館した県立一乗谷朝倉氏遺跡博物館や周辺地域と連携した取組を展開し、誘客の促進を図りました。

さらには、新型コロナウイルス感染症による行動制限の緩和と相まって、来場者は大幅に増加し目標を達成しました。

来年度は、北陸新幹線福井開業や、朝倉義景没後450年の節目となることから、関連事業と連携し、来場者の更なる増加を目指していきます。

VI. 適正な森林整備と木材利用の普及啓発を推進し、木材の有効活用に取り組みます

森林資源の循環利用を図るため、森林環境譲与税を活用し、林業事業体に高性能林業機械レンタル等を支援したことにより、効率的な搬出作業を進めることができ、木材生産量の目標を達成することができました。また、税情報を活用した所有者の把握や業務委託による迅速で効率的な調査に取り組み、森林経営管理法に基づく意向調査に着手することができました。

また、自伐林家の団体と連携し技術講習会などの開催に加え、林業機械のレンタル・リース支援などの取組により、林業の担い手育成を図ることができました。

子どもの居場所の木造・木質化を図ることや、薪ストーブなどの木質バイオマス利用機器の導入に対し支援することで森林資源を無駄なく有効利用することができました。

令和6年度から森林環境譲与税の徴収が始まるため、森林環境譲与税の使い道を広く市民に発信することで、森林への関心を高めるとともに森林整備の促進に繋げていきます。

Ⅶ. つくり育てる漁業を推進するとともに、水産物の販売力強化等の取組を進めます

つくり育てる漁業では、ヒラメ、アワビの中間育成放流及びマダイの直接放流を行い、水産資源の維持を図りました。その他、一本釣り漁業などの生産額が増加したことにより、目標とする漁業生産額3億円を達成することができました。

水産物の販売力強化の取組としては、主に定置網漁業で水揚げされる低利用魚のサゴシ（サワラ幼魚）の有効活用を図るため、県、県漁連、水産加工・流通業者等で構成する検討会を開催し、検討会で協議しながら、啓新高校調理科のサゴシを使った水産加工品づくりを支援しました。

また、こしのさかなまつりや鮮魚直売会を支援することで、地元水産物の消費拡大を推進しました。

Ⅷ. 地場産品を取り扱う中央卸売市場の認知度向上を図るとともに、安定供給のため施設の整備に取り組みます

食の安全・安心な流通拠点としての役割を周知するため、SNSやホームページ等を活用し、地場産品等の情報発信や市場見学会を実施しました。また、「ふくい鮮いちば」については、ふくい鮮いちば実行委員会と連携し、当初予定していなかったイベントを加えるなど工夫を凝らした取組を行い、目標を達成することができました。

今後も、魅力的なイベントの実施や地場産品等の情報発信を継続的に行います。さらに、観光施設等へのリーフレットの配布やサービスエリアでのポスター掲示等積極的な広報活動を行い、北陸新幹線福井開業に向けて取組を強化していきます。

施設の計画的な更新工事を行っていますが、円安やウクライナ情勢の影響により建設コストが高騰し、一部の工事を来年度対応としました。今後も、計画的な施設の改修及び機器の更新を行い、市場機能を維持していきます。

I. 水田園芸等の複合経営やスマート農業の普及促進を図るとともに、意欲ある若者などが農林水産業に参入・定着する取組を進めます

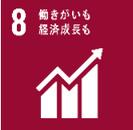
1	園芸の推進と水田の汎用化			達成度	
実行内容					
行動目標	<p>生産推奨品目を中心とした水田園芸や果樹栽培の普及・拡大を推進し、複合経営への転換を促します。</p> <p>また、「水稻+麦+大豆・そば」による2年3作を継続するとともに、主食用米から麦や大豆などへの転換を進め、主食用米の需要に応じた生産を徹底します。</p>				
取組内容	<p>○園芸に取り組む経営体数、生産推奨品目作付面積</p> <ul style="list-style-type: none"> ・麦・大豆・そば・その他野菜の作付けなど水田活用による支援制度等の周知・案内（4月） ・ミディートマト専門部会、オリーブ生産組合、鷹巣梅生産組合で種苗支援制度を周知・案内（4～3月随時） ・汎用化された水田の現地における確認（5～12月） ・園芸産地振興に向けたアンケートの実施（白方町7月、東安居地区11月） ・鷹巣梅生産組合とともに梅視察研修に参加（2月） ・園芸経営を希望する新規就農者への就農支援、就農後の経営サポート（随時） ・認定農業者の認定更新ヒアリング時に園芸作物の作付けを働きかけ（随時） ・種苗費の支援（ミディートマト、オリーブ、梅）（16経営体） ・農業機械・施設等の導入支援（2件） <p>○主食用米の生産面積</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生産数量の目安、水田活用による支援制度等を農家組合長会議で周知・説明（1月） 				
指標					
計画			結果・成果		
<p>④1 園芸に取り組む農業経営体（担い手）の割合 ：47.0%</p> <p>生産推奨品目作付面積 ：162.2ha（3年度）→165.7ha（4年度）</p> <p>主食用米の生産面積 ：4,612ha（3年度）→4,602ha以内（4年度）</p>	<p>④1 園芸に取り組む農業経営体（担い手）の割合 ：47.8%</p> <p>生産推奨品目作付面積：167.0ha</p> <p>主食用米の生産面積：4,385ha</p>				
成果・課題	<p>園芸に取り組む経営体の割合については、5年ごとの認定農業者の更新時ヒアリングや、新規の法人や集落営農組織設立時の相談において、園芸を組み入れた経営計画作成の助言や指導を行った結果、目標を達成しました。</p> <p>生産推奨品目の作付面積については、各種会議や説明会の機会を捉え、種苗支援を含めた園芸関係の支援制度等の周知を幅広く行い、ブドウ、ハウレンソウ、キュウリ等を中心に、園芸を行う農家が増加した結果、生産推奨品目作付面積が増加しました。</p> <p>主食用米の生産面積については、各農家の協力の下、飼料用米等の作付けが増加したため、計画の範囲内での作付けを行うことができました。</p> <p>引き続き、各種支援制度の周知を行うとともに、園芸の推進と水田の汎用化に取り組めます。</p>				

2	スマート農業の推進 DX			達成度	
実行内容					
行動目標	<p>農業者の高齢化や後継者不足が大きな課題となる中、持続可能な農業を実現するため、スマート農業の導入を進め、農作業の省力化や栽培技術の向上を図ります。</p>				
取組内容	<p>○スマート農業導入経営体数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スマート農業機器の導入（2 経営体） <ul style="list-style-type: none"> ┆経営体（直進アシストトラクター、直進アシスト田植機、収量計測コンバイン） ┆経営体（ロボット田植機、ロボットコンバイン、ドローン） ・研修会及び体験会 <ul style="list-style-type: none"> ┆「ドローンの安全使用と今後の活用法研修会」（6/15 ふくい農林水産支援センター） ┆「担い手オペレーター＆大豆播種前研修会」（5/24 JA 福井県） ┆「スマート農業研修会」（7/8 JA 福井県） 				
指 標					
計 画			結 果・成 果		
42 スマート農業導入経営体数（累計） ：40 経営体（3 年度）→41 経営体（4 年度）			42 スマート農業導入経営体数（累計） ：42 経営体		
成果・課題	<p>県の「儲かるふくい型農業総合支援事業」を活用し、市内 2 事業者に対して、トラクター、田植機、コンバイン及び農業用ドローンについて、導入にかかる経費を一部補助する事業を実施し、スマート農業機器の導入を支援しました。</p> <p>高齢化が進行し、担い手の減少が見込まれる中、本市農業にとって、省力化が可能となるスマート農業機器の普及は喫緊の課題ですが、導入経費が高い上、活用には一定の技術や知識の習得が必要です。</p> <p>今後も、導入経費の支援に加え、国や、メーカー、JA 等が行う研修会や体験会についての情報提供を行うなど、多様な関係者と連携して、スマート農業の普及に向けた取組を進めていきます。</p>				

3	担い手の確保			達成度	
実行内容					
行動目標	<p>就業イベントへの出展、見学ツアーなどを通して、本市の農林水産業を広くPRし、新規就業者の確保を目指します。併せて県や地域と協力しながら農地の斡旋や里親農家とのマッチングなど、受入環境の整備を行います。</p> <p>さらに、就業後の所得安定を図るため、奨励金の給付や資格取得、機械設備などへの支援を行い、就業意欲のある若者などの参入と定着を進めます。</p>				
	取組内容	<p>○農林水産業への新規就業者数</p> <p>【農業】(1人)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふくい園芸カレッジ生への説明会(4月、1月) ・新農業人フェアへの出展 農業 EXPO(東京7月1日、大阪11月) ・福井市農の見学ツアーの実施(10月24日・25日: 県外4人、12月15日・16日: 県内4人参加) ・認定新規就業者への農業用機械導入支援(1人) ・新規就農者への小農具購入支援(3人) <p>【林業】(7人)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就業相談会 <ul style="list-style-type: none"> 10月8日大阪 森林の仕事ガイダンス(全国森林組合連合会主催) 1月28日福井 森林の仕事ガイダンス(福井県森林組合連合会主催) 2月26日東京 自伐型林業移住マッチングフォーラム(全国自伐型推進協会主催) ・新規就業者 森林組合(4人)、林業事業者(2人)、自伐型林業協会(1人) <p>【水産】(0人)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規就業者フェア(9月19日大阪 ※台風によるJR運休のため出展見送り) ・既就業者への奨励金給付 ・ふくい水産カレッジの研修費用の一部支援 			
指 標					
計画			結果・成果		
農林水産業への新規就業者数: 16人 [内訳] 農業10人、林業5人、漁業1人			農林水産業への新規就業者数: 8人 [内訳] 農業1人、林業7人、漁業0人		
成果・課題	<p>農業は、大阪等で開催された新農業人フェアへの出展や見学ツアーの開催をしたものの、独立自営で行う新規就業者数は1人増加に留まり、目標を達成することができませんでした。</p> <p>今後は、園芸産地における農地のマッチングや就農後の初期投資の支援、県やJAなどの関係機関と連携した定期的な就農希望者の巡回・面談など、既存の取組をさらに強化します。</p> <p>林業は、大阪等で開催された森林の仕事ガイダンスや移住マッチングフォーラムへの出展などを通して、本市での就業を呼びかけたことにより、新規就業者数の目標は達成しました。</p> <p>また、新規就業者が安心して林業経営を営むことができる環境を整備するため、就農後の初期投資の支援などに取り組みました。</p> <p>これらの取組を継続し、さらに強化を行うことにより、新規就業希望者の誘致及び新規就農者の経営の安定化を図っていきます。</p> <p>水産業は、令和3年度に新規就業者を5人受け入れたことから、令和4年度は受入を希望する船主もなく、新規就業者を確保することができませんでした。</p> <p>今後も、新規就業者フェア等で本市漁業の魅力を発信するとともに、漁業協同組合や受入船主の意向確認を行い、新規就業者の確保に努めます。</p>				

II. 特産品の差別化や高付加価値化を図り、ブランド力を高めるとともに、ECサイトなどを活用し、市内外への販路開拓や認知度向上に取り組みます

4	流通販路の拡大・開拓			達成度	
実行内容					
行動目標	<p>連携中枢都市圏の各市町と連携し特産品の知名度向上に取り組むとともに、大都市圏等での販売イベントやECサイトなどを活用した効果的な情報発信及び観光部局との連携などECサイトの活用促進により、販路拡大・開拓を進めます。</p>				
	取組内容	<p>○園芸作物販売額・販路拡大事業（イベント・商談会等）への参加事業者数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・越前ふくいマルシェ開催（10/15～10/16 35事業者） ・まちデリ（ミニミニ越前ふくいマルシェ）開催（4回：9/27、10/4、11、18 延べ22事業者） ・福井美食フェア開催（10/14～11/30 首都圏飲食店76店舗参加） ・首都圏ふくいブランド発信イベント実施（越前福井フェア 4回：5月、8月、10月、3月） ・沖縄大交易会への参加支援（現地商談会2事業者：11/24、25 オンライン商談会6事業者） ・沖縄県と連携し、香港・シンガポールアンテナショップ出店（2事業者：1月） ・そばポスター（3月）、そばリーフレット作成（11月、3月） ・ふくいとそばインスタグラムキャンペーン（2/11～3/21） ・県と連携し、そばスタンプラリー開催（3回：8/1～9/30、11/1～12/31、2/1～3/31） <p>○ECサイト「ふくいさん」出品数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規に29店舗をサイトに掲載（市内19出店、10酒蔵） ・ポスト金福すいかモニターキャンペーン実施（8月） ・三里浜オリーブオイル〈橘〉発売（3月） ・楽天モール出店（3月） ・他部署との連携 <p style="margin-left: 40px;">福いいネ！クーポン・ドライブスタンプラリー（おもてなし観光推進課）、 福いいネ！キャンペーン（新幹線プロモーション課）、マイナンバー取得促進（市民課）など</p>			
指 標					
計画			結果・成果		
<p>④43 園芸作物販売額：9.4億円 販路拡大事業（イベント・商談会等）への参加事業者数：55事業者（3年度） →60事業者（4年度） ECサイト「ふくいさん」出品数 ：85品（3年度）→100品（4年度）</p>			<p>④43 園芸作物販売額：9.4億円 販路拡大事業（イベント・商談会等）への参加事業者数：60事業者 ECサイト「ふくいさん」出品数：133品</p>		
成果・課題	<p>販路開拓に取り組む事業者数や販路拡大事業への参加事業者数については、連携中枢都市圏域の市町と連携し、生産者に対し、県内外でのイベント出展を幅広く呼び掛けることにより、目標を達成しました。引き続き、事業者の積極的参加を促す事業を展開していきます。</p>				
	<p>農林水産物PRを目的としてオープンしたECサイト「ふくいさん」は、サイト機能強化及び他部署との事業連携により、会員登録者数や売上を伸ばしてきました。引き続き、出店者とともにサイトの魅力を高め、他部署との連携を行いながら、認知度向上に取り組んでいきます。</p>				

5	地域ブランド化の取組と園芸農家への支援			達成度	
実行内容					
行動目標	<p>金福すいかやディノケールなどを栽培する生産者への指導を強化するとともに、生産現場の課題解決に向けた栽培実証試験の実施により、高品質な農作物の生産体制を確立します。併せて、生産者の所得向上を図るため、県外への出荷を積極的に進めます。</p> <p>さらに、栽培技術向上のための現地巡回指導を継続して行い、園芸産地の振興を図ることで、持続的な農業の発展に努めます。</p>				
	取組内容	<p>○金福、銀福すいかの県外出荷個数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・金福、銀福を栽培するすべての生産農家（28 戸）に対し、土壌分析による施肥設計の実施及び毎週の巡回指導（4 月～7 月下旬） ・土壌水分計を活用した栽培指導（4 月～7 月下旬） ・インターネット通信販売会社への販売個数の提案 ・県外百貨店（さいか屋）御中元カタログ掲載 <p>○オリーブ苗木定植本数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福井産オリーブ苗生産試験：灌水方法や時間の調整、品種別発根率調査等で、令和元年度の発根率 22%から令和 4 年度には 40%に向上させた。 ・不織布ポットを用いた大苗育成：不織布ポットで育成することで、幹が通常の 1.4 倍肥大成長を可能とした。（本年度は 4 月～10 月で 328 本育成、このうち 200 本を生産組合に 3 月供給 ・定植：10 月 84 本、3 月 200 本 計 284 本定植（4 年度） 累計 2,500 本を定植 <p>○栽培実証試験数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生産農家が抱える課題解決のための実証試験（野菜 7 テーマ、果樹 4 テーマ、花卉 4 テーマ） 			
指 標					
計画			結果・成果		
<p>金福、銀福すいかの県外出荷個数 ：3,412 個（3 年度）→3,800 個（4 年度）</p> <p>オリーブ苗木定植本数 ：2,216 本（3 年度）→2,500 本（4 年度）</p> <p>栽培実証試験数：15 テーマ</p>			<p>金福、銀福すいかの県外出荷個数：3,976 個</p> <p>オリーブ苗木定植本数：2,500 本</p> <p>栽培実証試験数：15 テーマ</p>		
成果・課題	<p>金福、銀福すいかは、栽培指導の強化により生産農家の栽培技術が向上したことで、高品質な収穫物の生産量が確保できたことから、インターネット通信販売会社や県外百貨店、関西圏市場への出荷個数が増加し、県外出荷個数の目標を 176 個（4.6%増）上回る成果が得られました。</p> <p>オリーブ苗木定植本数は、福井産オリーブ苗木生産試験による発根率向上や不織布ポットを用いた大苗育成により、200 本の福井産オリーブ苗を供給し、目標である 2,500 本（累計）まで定植を伸ばすことができました。</p> <p>栽培実証試験では、職員一人 2 テーマ以上を目標とした 15 テーマを実施しました。主な成果として、きゃろふくの黄色と橙色の根色試験では、固定化の向上が図られました。また、福井市の推奨品目であるアスパラガスの品種比較試験では、収穫量の多い有望な品種を選定しました。越前水仙の圃場改良試験では、土質の硬度や通気性、保水性等のバランスが球根生育に大きく影響している事がわかりました。これら試験で得られた知見を、生産農家への栽培指導に活用しました。</p>				
	<p>（この欄は空欄です）</p>				

Ⅲ. 市内農産物や農業への理解や愛着を深めるため、食育や農業体験の機会の提供に取り組みます

6	食育・地産地消の推進			達成度	
実行内容					
行動目標	<p>農林漁業者等との交流や体験活動機会の提供により食文化についての理解を促し、市内の農林水産物の認知度向上を図るとともに、直売所等での販売イベントや学校給食での活用等により、食育・地産地消を推進していきます。</p>				
取組内容	<p>○学校給食における市内産農林水産物の使用品目数：25 品目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・米、大豆、大麦、トマト、きゅうり、ピーマン、ねぎ、キャベツ、ほうれん草、小松菜、越前水菜、カーボロネロ、大根、さつまいも、じゃがいも、きゃろふく、えのきだけ、しめじ、かぶ、さごし、さば、しいら、かます、とびうお、まだい ・県、JA と連携し、市内小中学校に対し、いちほまれを給食で提供（11～3 月） <p>○その他、食育・地産地消関連事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県と連携し、市内小学校で農業体験等授業を実施（9 月～12 月） 実施実績：味噌づくり・魚さばき・そば打ち 13 学校 28 学級 ・県と連携し、市内小中学校で味覚（だし）の授業を実施（10 月～1 月） 実施実績：9 学校 27 学級 ・まちデリ（ミニミニ越前ふくいマルシェ）開催（4 回：9/27、10/4、10/11、10/18） ・越前ふくいマルシェ開催（10/15～10/16） ・越前ふくいマルシェでの食育啓発ブース出展（10/15～10/16） ・㈱キューピーとの連携により県内ハーツ 10 店舗にて販売イベント開催（2 回：5 月、6 月） 取扱品目 6 品目：越のルビー、きゅうり、すいか等 ・㈱キューピーとの連携により県内ヤスサキ 11 店舗にて販売イベント開催（1 回：7 月） 取扱品目：越のルビー ・共立女子大、㈱キューピーとの連携によりカーボロネロレシピ考案（8 品） 市内飲食店 1 店舗、県外飲食店 4 店舗で活用（3 月） 				
指 標					
計 画			結 果・成 果		
学校給食における市内産農林水産物の使用品目数 : 25 品目			学校給食における市内農林水産物の使用品目数 : 25 品目		
農業体験等授業実施校数：10 校			農業体験等授業実施校数：13 校		
成果・課題	<p>学校給食における市内産農林水産物の使用品目数については、25 品目を達成しました。</p> <p>農業体験等授業実施については、味噌作り、魚さばき、そば打ち体験への支援を行い、目標を達成しました。</p> <p>来年度も引き続き「第 4 次福井市食育推進計画」の基本理念「ふくいの食を通じて心身ともに健康で豊かな食文化をつないでゆく」の実現に向けて、農林漁業者等との交流や体験活動、学校給食等におけるいちほまれの提供など、地場産農産物の利用促進を図り、地産地消を推進していきます。</p>				

IV. 地域の農地保全活動を支援し、自然や食などの地域資源を活用したコミュニティビジネスを推進します

7	 多面的機能支払活動組織の広域化を支援			達成度	
実行内容					
行動目標	<p>人口減少や高齢化により、農業生産基盤の保安全管理活動を行う人員の確保が困難となっています。農地農村の多面的機能を維持するため、集落間での連携による広域化に向けた支援を行います。</p>				
取組内容	<p>○多面的機能支払活動組織の広域化組織の団体数：累計8団体 ○広域化に向けた説明会開催 3回 1回目：6月28日（清水土地改良区理事会説明会） 2回目：7月7日（九頭竜川左岸用水土地改良区理事会説明会） 3回目：12月13日（清水土地改良区管内多面的機能支払活動組織向け説明会及び意見交換会）</p>				
指 標					
計画			結果・成果		
 46 多面的機能支払活動組織の広域化組織の団体数：累計8団体 広域化に向けた説明会開催数：3回			 46 多面的機能支払活動組織の広域化組織の団体数：累計8団体 広域化に向けた説明会開催数：3回		
成果・課題	<p>土地改良区の理事会（清水土地改良区、九頭竜川左岸用水土地改良区）に対して広域化に向けた説明会をそれぞれ1回ずつ開催しました。</p> <p>また、清水土地改良区管内の多面的機能支払活動組織に対して説明会及び意見交換会を1回開催し、合計3回の説明会等の開催となっています。</p> <p>清水土地改良区においては、理事会と多面的機能支払活動組織とも広域化については概ね了承を得て、令和5年度中に広域化協定を締結する見込みです。</p>				

8	有害鳥獣対策の推進			達成度	
実行内容					
行動目標	<p>有害鳥獣による農作物や生活環境等への被害を低減させるため、集落に対し侵入防止柵設置の支援や指導等を行い防除に取り組むほか、捕獲隊や関係機関と連携し、ICTの活用を検討しながら捕獲の効率化や捕獲数の増加を目指します。</p> <p>また、捕獲獣の処分について課題を整理し、処理方法に関する基本計画を策定します。</p>				
	取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ○侵入防止柵の設置 <ul style="list-style-type: none"> ・侵入防止柵導入 (50.0 km (79 集落)) ・令和5年度の侵入防止柵要望調査 (8月) ・集落鳥獣害対策協議会設立 (4 集落 累計 129 集落 102 協議会) ○農作物被害対策 <ul style="list-style-type: none"> ・被害の多い集落に対して侵入防止柵の維持管理等の集落点検を実施：16 集落 (6・7月 合同：県) ・中獣類の生態と被害対策の研修会を開催：(11月 共催：(公) ふくい農林水産支援センター) ・アライグマ捕獲従事者養成講習会 (2月) ・福井市鳥獣害対策研修会 (シカ・イノシシの行動特性と被害防止対策)：(2月 共催：県) ○シカ・イノシシ等の捕獲 <ul style="list-style-type: none"> ・シカ・イノシシの有害捕獲の実施 (通年) ○ふくい嶺北連携中枢都市圏 <ul style="list-style-type: none"> ・鳥獣害対策連絡会議の開催：(2月 ICTを活用した獣害対策研修会・情報交換会) ○捕獲有害獣中間処理基本計画 <ul style="list-style-type: none"> ・基本計画の策定 (3月) 			
指 標					
計 画		結 果・成 果			
<p>侵入防止柵の設置：50 km</p> <p>有害鳥獣による農作物被害金額 ：11,068 千円 (3 年度) →10,150 千円以下 (4 年度)</p> <p>シカ・イノシシの捕獲頭数 ：1,173 頭 (3 年度) →1,300 頭 (4 年度)</p> <p>ICTを活用した獣害対策研修会：1 回</p> <p>捕獲有害獣中間処理基本計画の策定</p>		<p>侵入防止柵の設置：50 km</p> <p>有害鳥獣による農作物被害金額：24,506 千円</p> <p>シカ・イノシシの捕獲頭数：1,077 頭</p> <p>ICTを活用した獣害対策研修会：1 回</p> <p>捕獲有害獣中間処理基本計画の策定</p>			
成果・課題	<p>捕獲隊や集落と連携し捕獲と防除に取り組んだ結果、侵入防止柵は計画どおり延伸することができました。しかし、農作物被害金額及びシカ・イノシシ捕獲頭数は目標を達成できませんでした。</p> <p>農作物被害金額は、豚熱により減少したイノシシの個体数回復による水稻被害の増加に伴い、被害金額が大きく増加しました。</p> <p>今後は、農作物被害の多い集落に対して県と市で獣害対策点検を行い、侵入防止柵の維持管理点検の強化など効果的な対策について指導を行うとともに、未普及集落に対して侵入防止柵の設置に取り組めます。また、有害鳥獣対策として、捕獲隊や集落と連携し有害鳥獣の捕獲と侵入防止柵の設置など防除に取り組めました。今後も未設置の集落への鳥獣被害対策協議会設立を促し、集落ぐるみでの対策につなげます。</p> <p>さらに、シカ・イノシシの捕獲頭数が伸び悩んでいることから、捕獲隊や関係機関と連携しながら、捕獲頭数の増加を目指します。</p>				

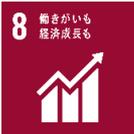
9	農地・農村環境の維持・活性			達成度	
実行内容					
行動目標	<p>里地・里山地域の維持・活性化を図るため、古民家、耕作放棄地などの地域資源を利活用した農家民宿の整備や放牧、果樹栽培など、地域のニーズに応じた取組を支援し、コミュニティビジネス等の魅力あるビジネスの構築を推進します。</p>				
取組内容	<p>○里地・里山活性化事業の取組集落 ・ 棗地区浜別所町 ふるさと茶屋「なつめカフェ」整備（3月） （空き家改修及び備品等を整備し、地元農産物を使った商品の販売及び飲食を提供）</p>				
指 標					
計画			結果・成果		
里地・里山活性化事業の取組数（累計） : 29 事業（3 年度）→30 事業（4 年度）			里地・里山活性化事業の取組数（累計）：30 事業		
成果・課題	<p>棗地区において、空き家改修によるふるさと茶屋の整備に取り組み、1事業増加となりました。今後も、引き続き地域のニーズに応じ、地域資源を活かした取組を支援することで、里地・里山地域のつながりを強化し、地域活性化に向けたコミュニティビジネスを推進します。</p>				

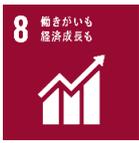
V. 地域交流の活性化を図るとともに、安心して利用できる休憩空間の場を提供します

10	道の駅「一乗谷あさくら水の駅」の利用促進			達成度	
実 行 内 容					
行動目標	<p>魅力あるイベントの開催、季節の特産品や季節メニューの販売などにより利用を促進するほか、積極的な情報発信により施設をPRします。</p> <p>また、新たに開館する県立一乗谷朝倉氏遺跡博物館や周辺地域と連携した取組を展開し、更なる誘客を図ります。</p>				
	取組内容	<p>○道の駅イベント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・春のあさくらにぎわい祭り（4月23日・24日：合計5,945人） ・ほたる de カジュアルフレンチ（6月毎金土曜：合計222人） ・夏のあさくら水あそび（屋台出店、簡易ミストシャワーの設置、水鉄砲の無料貸出など）（7月30日～8月31日） ・夏休み企画（とうや水の駅（北海道）及び道の駅ふくしま特産品の販売、メダカ展示販売会など）（8月13日～8月31日） ・来場者100万人達成記念セレモニー（8月27日） ・足羽鮎フレンチ食事会（9月10日・11日：合計11人） ・メダカ展示販売会（10月23日1,407人） ・朝倉羽釜飯販売（10月1日～）、オリジナル家紋ホルダー販売（10月10日～） ・水の駅わくわく体験フェスタ、秋の食・文化祭（11月3日・5日・6日：合計9,753人） ・朝倉かるた美文字教室（12月15・22日：合計14人）、紅白福袋セット販売（12月30日～） ・朝倉かるた美文字教室（1月12日・14日・22日・23日：合計52人） ・「一乗谷あさくら冬の膳」開発販売（2月13日～） ・幻の都オリジナルカレンダー販売（3月4日～） ・あさくら桜まつり（3月25日・26日：合計1,921人） <p>○体験農園等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・田植え体験 296人（5小学校）（5月10日） ・ホテル観賞 1,900人（6月1日～26日） ・夜の虫観察会 43人（16家族）（7月30日） ・水生生物観察会 39人（14家族）（8月21日） ・稲刈り体験 282人（5小学校）（9月9日・13日） ・園児さつまいも収穫体験 381人（12こども園・幼稚園）（9月27日～10月6日） 			
指 標					
計 画			結 果・成 果		
一乗谷あさくら水の駅の来場者数 : 147,217人（3年度）→150,000人（4年度）			一乗谷あさくら水の駅の来場者数：188,589人		
成果・課題	<p>今年度は、「ほたる de カジュアルフレンチ」など新規事業を含めた利用促進イベントを多彩に開催したことに加え、新型コロナウイルス感染症による行動制限の緩和と県立一乗谷朝倉氏遺跡博物館の開館が相乗効果となり、目標を大きく上回る成果を上げることができました。</p> <p>指定管理者の積極的な施設PRや季節に応じた各種イベントの開催により、施設の魅力と利用者満足度が向上したことが来場者数の増加に繋がったと分析しています。また、足羽鮎を活用した食事の提供や県立一乗谷朝倉氏遺跡博物館との記念品の共同販売、他県道の駅の特産品販売など周辺資源や広域的な資源を有効に活用できたことで施設の新たな魅力を創出することができました。</p> <p>来年度は、北陸新幹線福井開業を迎えるとともに、朝倉義景没後450年の節目となるため、関連事業と連携しながら県内外客の更なる誘客に取り組めます。</p>				

VI. 適正な森林整備と木材利用の普及啓発を推進し、木材の有効活用に取り組みます

11	森林の多面的機能の強化 DX	 <p>13 気候変動に 具体的な対策を</p>	 <p>15 陸の豊かさも 守ろう</p>	達成度	
実行内容					
行動目標	<p>森林環境譲与税を活用し、山地災害の防止、水源涵養、保健休養、木材の生産等の多面的機能を強化するため、荒廃した民有林等の整備に取り組みます。</p> <p>また、航空レーザー測量等ICTを活用しながら森林の所有者に対して、今後の管理に関する意向調査を実施します。</p> <p>さらに、林道の安全性を確保するため、計画的に橋梁の補修を行います。</p>				
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ○森林整備面積 <ul style="list-style-type: none"> ・市内3森林組合や民間団体が間伐を実施(434.79ha) ○意向調査着手エリア(上一光、下一光、西市布地区) <ul style="list-style-type: none"> ・意向調査地権者説明会に係る自治会長への説明(8月) ・西市布地区説明会7カ所(9月、12月)、上一光地区4カ所(11月、2月)、下一光地区1カ所(11月) ・意向調査12カ所を実施(西市布地区:8月~11月、上一光、下一光地区12月~2月) ○補修した林道橋梁数 <ul style="list-style-type: none"> ・本年度補修が完了した橋梁:小当見向山2号橋(小当見向山線) ・前年度までに補修が完了した橋梁: 長堀橋(越前西部3号線)、二枚田幹1号橋、2号橋(二枚田幹線)、梅ヶ岩橋(梅ヶ岩線)、中手2号橋(中手線) 				
指 標					
計画			結果・成果		
<p>④5 森林整備面積 : 433ha(3年度)→440ha(4年度)</p> <p>意向調査着手エリア : 8カ所(3年度)→12カ所(4年度)</p> <p>補修した林道橋梁数(累計) : 5橋梁(3年度)→6橋梁(4年度)</p>	<p>④5 森林整備面積 : 434.79ha</p> <p>意向調査着手エリア : 12カ所</p> <p>補修した林道橋梁数(累計): 6橋梁</p>				
成果・課題	<p>森林環境譲与税を活用し、小規模の森林整備や高性能林業機械レンタルの支援に加え、県の森林整備の支援が拡充しましたが、計画していた森林整備を取りやめた箇所があったため、森林整備面積の目標を達成することができませんでした。</p> <p>また、登記名義人の死亡による法定相続人の調査など森林所有者の特定に時間を要しましたが、対象地をまとめたことで地元の説明会が効率化されたことにより目標を達成することができました。</p> <p>今後、20年間で市内672林班の意向調査を進めるため、税情報を活用した所有者の把握や業務委託による迅速で効率的な調査に取り組み、地域に応じた適正な森林整備を進めます。</p> <p>さらに、福井市林道施設長寿命化計画(個別施設計画 橋梁)に基づき、橋梁の機能に支障が生じる可能性があり、早期に措置を講ずべき状態の1橋を補修しました。</p> <p>来年度、福井市林道施設長寿命化計画(個別施設計画 橋梁)を改訂し、早期に補修が必要な橋梁を順次補修していきます。</p>				

12	林業の担い手の育成			達成度	
実行内容					
行動目標	<p>林業事業者の資質向上や効率的な作業環境を構築するため、専門知識の習得、安全管理などの研修に対する支援や、林業機械レンタル費用の一部を助成することで、労働環境の改善や経営基盤の強化に取り組めます。</p>				
	取組内容	<p>○技術講習会などの開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自伐林家講習会を6回開催 ・自伐型林業チェーンソー、刈払機安全講習（5月24日～26日）48人参加 美山地区 ・自伐型林業チェーンソー、刈払機安全講習（9月30日～10月3日）21人参加 美山地区 ・自伐型フォーラム・現地講習会（6月11日～12日）50人参加 美山地区 ・軽トラが通る程度の環境保全型の作業整備講習（7月23日～24日）28人参加 美山地区 ・軽トラが通る程度の環境保全型の作業整備講習（8月6日～11日）30人参加 美山地区 ・軽トラが通る程度の環境保全型の作業整備講習・現地講習（9月16日～19日）70人参加 美山地区 <p>○林業機械のレンタル台数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4団体5台のレンタルを支援 <ul style="list-style-type: none"> 一般社団法人ふくい美山きときとき隊（2台） 株式会社ロゴーズ（1台） 株式会社光潤（1台） 福井森林組合（1台） 			
指 標					
計 画			結 果・成 果		
<p>技術講習会などの開催：4回 林業機械レンタル台数：4台</p>			<p>技術講習会などの開催：6回 林業機械レンタル支援台数：5台</p>		
成果・課題	<p>技術講習会などの開催については、自伐林家の団体と連携し、作業道整備講習やチェーンソー、刈払機の安全講習を開催した結果、目標を達成し、作業従事者の技能向上を図ることができました。</p> <p>林業機械レンタル支援については、自伐林家や森林組合等の林業事業者に対し、積極的に高性能林業機械等の導入についてPRした結果、目標を達成し、森林整備の生産性と効率化をさらに高めることができました。</p>				
	<p>今後も、研修に対する支援や林業機械レンタル支援を継続し、林業の担い手育成に努めます。</p>				

13	林業の成長産業化の推進	 8 働きがいも 経済成長も	 15 陸の豊かさも 守ろう	達成度	
実行内容					
行動目標	<p>森林資源の「伐る、使う、植える、育てる」という循環利用に取り組むことで、林業の生産性の向上や市産材の需要拡大に努めます。</p> <p>また、木材の活用や普及啓発を図るため、子どもの居場所の木造・木質化を支援します。</p> <p>さらに、森林資源を無駄なく有効利用するため、薪ストーブなどの木質バイオマス利用機器の導入に対し支援します。</p>				
	取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ○木材生産量 <ul style="list-style-type: none"> ・市内3森林組合などが間伐材を搬出 (46,859.683 m³) (A材：6,213.945 m³、B材：14,015.568 m³、C材：26,630.170 m³) ○子どもの居場所等の木質化 <ul style="list-style-type: none"> ・めぐみこども園がツリーデッキを新築 ○木質バイオマス利用機器導入 <ul style="list-style-type: none"> ・市民10人から申請があり、薪ストーブなどの木質バイオマス利用機器を導入 			
指 標					
計 画			結 果・成 果		
木材生産量 (A材+B材+C材)：40,000 m ³ 子どもの居場所等の木質化：1施設 木質バイオマス利用機器導入：10台			木材生産量 (A材+B材+C材)：46,859.683 m ³ 子どもの居場所等の木質化：1施設 木質バイオマス利用機器導入：10台		
成果・課題	<p>木材生産量については、ウッドショックの影響による市場での国産木材の需要が増えた外的要因や、森林組合等が整備するために必要な所有者同意に対する支援、また、県の木材搬出の支援制度の拡充などにより、間伐を順次進めることができる環境が整備でき、目標を達成することができました。</p> <p>子どもの居場所の木質化、7月に募集を行ったところ、事業の周知が図られたことにより、木製品購入への関心の高さだけでなく、木質化では1施設から応募があり木造・木質化の施設整備が進み、目標を達成することができました。</p> <p>木質バイオマス利用機器導入については、5月30日から募集を開始したところ、燃油高騰の中、再生可能エネルギーへの市民の関心が高まったことから、木質バイオマス利用機器導入の支援は、応募者が殺到し短期間で終了しました。</p>				
	<p>今後、市民ニーズを把握しながら子供が木に触れる空間整備をはじめ、施設の木造・木質化が進むよう支援対象の拡大を検討し、また、これらの事業を周知し木材の有効活用に取り組めます。</p>				

Ⅶ. つくり育てる漁業を推進するとともに、水産物の販売力強化等の取組を進めます

14	水産資源の維持と所得の向上			達成度	
実 行 内 容					
行動目標	漁業所得の向上と水産物の安定供給を図るため、水産資源の維持につながる稚魚・稚貝の放流、漁港の未利用水域を活用した養殖、漁場環境を改善する海底耕うんに対し支援します。 また、資源管理に取り組む漁業経営体の漁船機器更新を支援します。				
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ○直接放流及び中間育成放流 <ul style="list-style-type: none"> ・アワビ中間育成放流 17,500 尾 (4 月) ・ヒラメ中間育成放流 36,000 尾 (7 月) ・マダイ直接放流 10,000 尾 (9 月) ○海底耕うん <ul style="list-style-type: none"> ・鷹巣沖漁場 4km² (6～8 月)、福井三国第 2 漁場 15km² (6～8 月) ○養殖 <ul style="list-style-type: none"> ・サクラマス 422 尾 (5 月)、バフンウニ 1,855 個 (8 月) ○漁船機器更新 <ul style="list-style-type: none"> ・底曳網漁船の巻揚機更新 (9 月) 				
指 標					
計 画			結 果・成 果		
④④ 漁業生産額：300 百万円 養殖サクラマスの生産数：400 尾 漁船機器等の更新を行う経営体数：1 経営体			④④ 漁業生産額：300 百万円 養殖サクラマスの生産数：422 尾 漁船機器等の更新を行う経営体数：1 経営体		
成果・課題	<p>漁業生産額は、定置網漁業及びいか釣り漁業の生産額は減少しましたが、一本釣り漁業及び刺網漁業の生産額が増加したことから、目標額を達成することができました。今後、台風や急潮等で被災した定置網の復旧を支援するとともに、水産資源を確保するための稚魚・稚貝の放流や、漁場環境の改善を図るための海底耕うんを継続して行うことで、漁業生産額の増加を目指します。</p> <p>サクラマス養殖は、養殖技術が向上してきたことにより生産数を増やすことができました。今後、養殖を担う意欲的な人材を確保するとともに、販路の拡大に取り組んでいきます。</p> <p>漁船機器等の更新については、漁業効率の向上を図るため、国の補助事業を活用し、底曳網漁船の巻揚機の更新を支援しました。近年、スマート水産業の技術が進んでいることから、国や県の動向を注視しながら、本市漁業の生産性向上や省力化につながる機器導入支援を検討していきます。</p>				

15	地魚の販売力強化			達成度	
実行内容					
行動目標	<p>地魚の販売力強化を図るため、未利用・低利用の水産物を使った加工品づくりを推進し、水産加工業者と高校生による新商品開発を支援します。</p> <p>また、漁業協同組合や漁業者等が行う鮮魚・水産加工品の販売会を支援します。</p>				
	取組内容	<p>○未利用・低利用の水産物を使った加工品づくり 〈啓新高校との取組〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定置網漁業の現場及び水産加工会社の見学を通じた背景学習（5、6月） ・流通販売の担当者や魚介練り製品を製造する事業者との勉強会（6月） ・コンセプト発表会、試作品づくり実習（7、9月） ・生徒が考案したサゴシ（サワラの幼魚）を使ったオリジナル水産加工品9品の発表会（10月） ・市民向け試食会、事業者向け商談会（2月） <p>○鮮魚・水産加工品の販売会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こしのさかなまつり（5月） ・直売会（6～9月） 			
指 標					
計画			結果・成果		
<p>オリジナル水産加工品の開発：1品目 鮮魚・水産加工品の販売会：2回</p>			<p>オリジナル水産加工品の開発：9品目 鮮魚・水産加工品の販売会：2回</p>		
成果・課題	<p>主に定置網漁業で水揚げされる低利用魚のサゴシを使ったオリジナル水産加工品の開発に向けて、県水産課、県漁連、水産加工業者等で構成する検討会を5回開催し、啓新高校と連携した取組について協議しました。協議した結果を踏まえ、啓新高校が現場学習や勉強会を実施し、10月にはサゴシを使ったオリジナル水産加工品9品を開発しました。2月には、市民向け試食会と事業者向け商談会を開催しました。今後、協力事業者を募り、生徒が考案した試作品の商品化を目指します。</p> <p>また、地魚の消費拡大や魚食推進を図るため、こしのさかなまつりや菜崎漁港での直売会を支援しました。</p>				
	<p>（この欄は空欄です）</p>				

16	災害に備えた漁港施設及び海岸保全施設の更新			達成度	
実行内容					
行動目標	<p>高潮や高波等の自然災害から漁港の背後集落を守るとともに、安全に漁業活動が行えるよう、長寿命化計画や日常点検の調査結果に基づき、漁港施設及び海岸保全施設の保全工事を行います。</p>				
取組内容	<p>○白浜漁港機能保全復旧事業 ・防波堤補修 L=26.0m (11/11 完了)、臨港道路補修 L=137.0m (12/23 完了) ○鮎川漁港船揚場改修工事 L=18.0m (3/3 完了)</p>				
指 標					
計 画			結 果・成 果		
白浜漁港機能保全復旧事業 鮎川漁港船揚場改修工事：12月			白浜漁港機能保全復旧事業：12月完了 鮎川漁港船揚場改修工事：3月完了		
成果・課題	<p>鮎川漁港船揚場改修工事は、天候不順による波浪や風浪の影響を受けたため、工事の安全性を考慮し、工期を延長しましたが、年度内に完了しました。</p> <p>今後も、長寿命化計画や日常点検の調査結果に基づき、老朽化した漁港施設や海岸保全施設の保全工事を適切に行っていきます。</p>				

Ⅷ. 地場産品を取り扱う中央卸売市場の認知度向上を図るとともに、安定供給のため施設の整備に取り組みます

17	市民に魅力ある市場の提供			達成度																																		
実行内容																																						
行動目標	<p>食の安全・安心な流通拠点として市場の役割を周知するため、SNSやホームページ等を活用し、魅力的な地場産品等の情報発信に取り組み、地産地消を推進します。</p> <p>また、「ふくい鮮いちば」の認知度を向上させるため、ふくい鮮いちば実行委員会と連携したイベントの開催を定期的に行い、観光客やリピーターの増加にも取り組みます。</p>																																					
取組内容	<p>○地場産品等の情報発信 82回（ホームページ31回、Facebook50回、広報ふくい1回）</p> <p>○「ふくい鮮いちば」開催イベント 11回 43,215人</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr><td>ふくいサーモン祭</td><td>4月</td><td>1,883人</td></tr> <tr><td>半夏生フェア</td><td>7月</td><td>3,899人</td></tr> <tr><td>土用の丑の日</td><td>7月</td><td>2,595人</td></tr> <tr><td>おかえりな祭</td><td>8月</td><td>2,131人</td></tr> <tr><td>秋の収穫祭</td><td>10月</td><td>1,332人</td></tr> <tr><td>食品ロスをなくそう</td><td>10月</td><td>4,614人</td></tr> <tr><td>8周年祭・カニフェア</td><td>11月</td><td>4,617人</td></tr> <tr><td>歳末大市</td><td>12月</td><td>14,355人</td></tr> <tr><td>越前がれいウィーク</td><td>1月</td><td>5,254人</td></tr> <tr><td>おさかな de アレンジ</td><td>2月</td><td>1,266人</td></tr> <tr><td>若狭のええ魚市</td><td>3月</td><td>1,269人</td></tr> </table> <p>○「ふくい鮮いちば」のポスター掲示（一乗谷あさくら水の駅）</p> <p>○リーフレットの配布 福井、石川の温泉施設等 2,145部</p> <p>○市場見学会 親子 3回 71人（7/22、7/23、7/30） 学校等 27団体 819人</p>					ふくいサーモン祭	4月	1,883人	半夏生フェア	7月	3,899人	土用の丑の日	7月	2,595人	おかえりな祭	8月	2,131人	秋の収穫祭	10月	1,332人	食品ロスをなくそう	10月	4,614人	8周年祭・カニフェア	11月	4,617人	歳末大市	12月	14,355人	越前がれいウィーク	1月	5,254人	おさかな de アレンジ	2月	1,266人	若狭のええ魚市	3月	1,269人
ふくいサーモン祭	4月	1,883人																																				
半夏生フェア	7月	3,899人																																				
土用の丑の日	7月	2,595人																																				
おかえりな祭	8月	2,131人																																				
秋の収穫祭	10月	1,332人																																				
食品ロスをなくそう	10月	4,614人																																				
8周年祭・カニフェア	11月	4,617人																																				
歳末大市	12月	14,355人																																				
越前がれいウィーク	1月	5,254人																																				
おさかな de アレンジ	2月	1,266人																																				
若狭のええ魚市	3月	1,269人																																				
指 標																																						
計画			結果・成果																																			
<p>地場産品等の情報発信 ：77回（3年度）→80回（4年度）</p> <p>ふくい鮮いちばイベント回数 ：7回（3年度）→10回（4年度）</p> <p>イベント時来場者数 ：28,072人（3年度）→43,000人（4年度）</p>			<p>地場産品等の情報発信：82回</p> <p>ふくい鮮いちばイベント回数：11回</p> <p>イベント時来場者数：43,215人</p>																																			
成果・課題	<p>地場産品等の情報発信については、安全・安心な生鮮食料品のPRや旬な食材の情報を定期的に発信し、目標を達成することができました。</p> <p>「ふくい鮮いちば」については、ふくい鮮いちば実行委員会と連携し、当初予定していなかったイベントを加えるなど工夫を凝らした取組を行い、目標を達成することができました。さらに、新たにポスターを作成し、観光誘客への取組を強化しています。</p> <p>今後も、魅力的なイベントの実施や地場産品等の情報発信を継続的に行います。さらに、観光施設等へのリーフレットの配布やサービスエリアでのポスターの掲示等積極的な広報活動を行い、北陸新幹線福井開業に向けて取組を強化していきます。</p>																																					

18	市場の整備及び維持管理			達成度							
実行内容											
行動目標	安全安心な生鮮食料品等を安定的に供給し、災害時においても即応できる食料供給の拠点として、施設や設備の更新工事を計画的に行い、市場機能の確保を図ります。										
取組内容	<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 30%;">○消雪設備改修工事</td> <td>6月契約、12月完了</td> </tr> <tr> <td>○冷凍機更新工事</td> <td>建設コスト高騰により入札不調（9月、11月入札）</td> </tr> <tr> <td>○卸売棟屋根防水工事</td> <td>12月契約、2月着工（令和5年12月完了予定）</td> </tr> </table>					○消雪設備改修工事	6月契約、12月完了	○冷凍機更新工事	建設コスト高騰により入札不調（9月、11月入札）	○卸売棟屋根防水工事	12月契約、2月着工（令和5年12月完了予定）
○消雪設備改修工事	6月契約、12月完了										
○冷凍機更新工事	建設コスト高騰により入札不調（9月、11月入札）										
○卸売棟屋根防水工事	12月契約、2月着工（令和5年12月完了予定）										
指 標											
計 画			結 果・成 果								
消雪設備改修工事：12月完了 冷凍機更新工事 卸売棟屋根防水工事：設計・契約・着工			消雪設備改修工事：12月完了 冷凍機更新工事：入札不調により、来年度対応 卸売棟屋根防水工事：8月設計・12月契約・2月着工								
成果・課題	<p>消雪設備改修工事は計画どおり完了しました。</p> <p>冷凍機更新工事は、円安やウクライナ情勢などにより建設コストが高騰した影響を受け、入札が2回不調となり、冬期間の施工が困難となったため来年度対応にしました。</p> <p>卸売棟屋根防水工事は、12月の議決後に契約、2月に着工し、令和5年12月の完成を目指しています。</p> <p>来年度以降も計画的な施設の改修及び機器の更新を行い、市場機能の安定を図ります。</p>										